

7
2023

三重病院

ニュースレター

news letter vol.282



- 01 [三重病院脳神経内科]
長期に重症の神経難病を診療できる病棟
5病棟の生活のひとコマ[®]
- 02 やまばとギャラリー情報コーナー
通所支援事業のひとコマ
- 03 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
- 03 Wi-Fi ご利用に関しまして
今月のみえツウちゃん／外来からのお知らせ
- 04 病院からのお願い／外来診察のご案内

三重病院脳神経内科

長期に重症の神経難病を診療できる病棟

当科の病棟では、神経変性疾患による難病患者さんの入院診療を行っています。1972年に策定された国の「難病対策要綱」では、①難病の調査研究の促進、②難病を診療できる医療施設の整備、③難病患者さんの医療費の自己負担軽減、を3本柱としておりましたが、その後1998年に改正され、④地域における難病患者の保健医療福祉の充実・連携と、⑤難病患者のクオリティオブライフQOLの向上を目指した福祉施設の推進、の2つが加えられました。これを受けて、同年に難病特別対策推進事業が新設され、この時に神経難病を診療できる病棟の1つとして、三重病院脳神経内科病棟の50床が新たに設置されました。

さらに2015年1月に「難病の患者に対する医療等に関する法律」が施行され、2018年から各都道府県が、新たな難病の医療提供体制を推進しています。三重県では、難病診療連携拠点病院として三重大学病院が、難病診療分野別拠点病院として三重病院と鈴鹿病院が指定され、多くの難病医療協力病院とともに、上記①～⑤を踏まえた難病医療を提供しています。

現在当科病棟では、比較的重症の神経難病患者さんに、様々な治療・看護上のノウハウを持って診療しております。重症患者さんが多いため、比較的軽症の患者さんは在宅療養や、老人保健施設、他病院で診療・介護していただいております。

左記の難病の医療提供体制以外に、医療福祉の障害者サービスとして、当科病棟では上記50床のうち20床を確保し、対象となる入院患者さんに療養介護サービスを行い、機能訓練や、日常生活支援を強化しています。



サービス管理責任者、主治医、担当看護師、療養介助員、リハビリテーションスタッフ、家族に加えて、外部から相談支援専門員と、必要があれば成年後見人といった多職種のスタッフによって、患者さんの能力、環境、日常生活状況を多面的に評価し、患者さんの希望する生活や課題を把握し、個別支援計画を作成して、その後半年に1回これらのモニタリングを継続して行い、難病患者さんのQOLの向上を目指します。

これらを通じて三重病院脳神経内科では、冒頭に述べた、難病の調査研究の促進、難病を診療できる医療施設としての治療・看護、難病患者さんの保健医療福祉の充実・連携、難病患者さんのQOL向上について、また三重県の難病診療分野別拠点病院として、日々努力していきたいと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。（脳神経内科部長 丹羽 篤）